

THE ROTARY CLUB OF NAGOYA-CHIKUSA



WEEKLY

なごや ちくさ

題字 黒野清宇

名古屋千種ロータリークラブ
 承認 1982年 8月24日
 例会日 火曜日 12:30
 例会場 名古屋東急ホテル
 事務局 TEL763-5110 FAX763-5121
 会長 三好 親
 幹事 伊藤 健文
 広報・会報委員長 吉田 玄

No. 27

地域を育み、大陸をつなぐ BUILDING COMMUNITIES BRIDGING CONTINENTS

2010~2011年度 RI会長 レイ・クリンギンズミス

今日の例会

第1351回 平成23年2月22日(火)
 友愛の日
 米山奨学生指導教員 西尾林太郎教授

先週の例会

第1350回 平成23年2月15日(水)晴
 講演 “樹上の世界へようこそ”
 ツリーライミングジャパン代表 中部大学教授
 ジョン・ギヤスライト 様

◆我等の生業“

◆ゲスト紹介 ツリーライミングジャパン代表 中部大学教授
 ジョン・ギヤスライト 様

◆出席報告

会員 42(37)名 出席 30名
 出席率 81.08%
 前々回 2/1(修正出席率)94.29%

伊藤幹事報告

- 1) 本日例会終了後、クラブアセンブリーを開催致しますので、担当の方は3階の梅の間にお集まり下さい。
その後、理事役員会を開催致しますので理事役員の方はそのままお残り下さい。
- 2) ロータリーの友2月号と抜粋のつづりが来ておりますのでお帰りにお持ち下さい。

三好会長挨拶

皆さん こんにちは

ヨーロッパの何処かの観光名所で何方か行かれた事があるかも知れませんが、そこにある古い井戸の横で現地のガイドから『この井戸に願い事をするとそれが叶うのです!』と言われて夫が覗き込もうとすると横から『どいて!私が願いをするんだから!』と言って妻が夫を押し退けて井戸の中を覗いた時バランスを崩して井戸の中に真っ逆さま。

夫は『本当だ!願いが叶った!!!!!!』

お気を付け下さい。

委嘱状伝達 2011~2012年度



危機管理委員会 副委員長 大口弘和君
 職業研修チーム委員会 副委員長 渡邊源市君
 広報委員会 委員 池森由幸君

◆講演 “樹上の世界へようこそ”

ツリーライミングジャパン代表 中部大学教授
 ジョン・ギヤスライト様



皆さんお久しぶりです。
 本当に、僕は木の上に住んでいます。
 先日大雪の時は家が揺れて、地震だと思ったらインシシがお尻を木に押しつけていました。

その位自然の中に住んでいます。

今日は木の話をしたと思います。

僕は木が大好きです。

今、全国でツリークライミングをやっています。
 簡単に言うと「木登り」ですが、普通の木登りとちょっと違います。

目的があって、やっています。

10年以上前に始め、現在資格を取った人は1883人います。

20万人以上の子供達を木に登らせました。

c. w. ニコルさんと一緒に虐待された子供とツリークライミングをやっています。

初めて子供達を森の中に連れて行くと、彼らは不思議で仕様がなげ様子です。目線を合わせてくれない。身体に触らせてもくれません。虐待された子供はいきなり触ると怯えたようになります。この子供は小さいとき金属バットで殴られ、頭が変形しヘルメットが被れません。子供は、誰も登ろうと思いません。色んな人生があった子供達です。

「よし、今から自分の人生そっくりな木をさがそう。あの木は枝がいっぱい折れて大変な事があったけれど、あっちから新しい枝が出てきたから、新しい人生が造れるかもしれない。あの切り株、横から目が出てきている。それが人生かもしれないよ」

少しずつ、木を探しました。

一人の子が切り株のところへ来ました。「僕、実は刺された。あの時から僕の人生が止まった。この木と同じ」

「でもその切り株は横から芽が出てきたから、君の人生も終わってないよ」

ツリークライミングはただ登るだけではなく、木が先生になって色んな事を教えてくれます。そういうプログラムを作っています。

僕は小学校3年生の時に虐められました。ママは再婚してパパとうまくいかず、家族に虐待されました。どもる癖がついており、学校でも虐められました。

6才の時カナダからアメリカに引っ越しました。7才の時父の会社が倒産して、父はアルコール中毒になって、僕は施設に入れられました。8才でカナダに戻ってママが再婚したパパと暮らしました。パパは言いました。「君はお母さんに付いてきた荷物だ。君はいらない。よけいな事をしないように」

僕にとって最低最悪。ママに言えず、虐待されました。新しいパパは僕が嫌いでした。

僕を助けてくれたのはお爺ちゃんでした。

ある日、お爺ちゃんは僕の顔を見て、「何か大変な事があるね」と言ってくれました。

「もう死にたい」全部話しました。

お爺ちゃんは「木登りだ」と言いました。

僕は狂ってると思いました。

お爺ちゃんと丘の上の大きい木に登りました。

10メートルまで登った時お爺ちゃんが言いました。

「視点を変えれば問題はなくなるよ」

高いところから回りを見ると島全体が見えました。

「学校が人生の全てじゃないよ」「家の中が人生の全てじゃないよ」「木は枝を広げていらっしやいと言っている」「海がきらきらして遊んでと言っている」「まだ人生はあるよ」

「僕、友達がない」

「友達を作るのは簡単だよ。皆に合わせる必要はない。友達を作る秘訣は面白いことをする事。友達はやって来る」

「この木の上に小屋を造ろうか」

学校の帰りにお爺ちゃんの所に寄ってツリーハウスを作り出しました。

2週間経ったら、通りかかった学校の子供たちに「登って良いですか」と聞かれました。よく見ると僕に意地悪をする子でした。悩んだけど「登って良いよ」と言いました。

登ってきたらその子に意地悪な気持ちが無くなりました。同じ視点で回りを見始めたら、「家も学校も見えるよー」と皆喜んでいました。皆、自分の家を指差していましたが、意地悪なその子は指を差しません。

僕は感じました。「あの人の家も大変かもしれない」

「僕、家嫌い」

「俺も家、親父嫌い」

「だから僕どもる」

「うん」

次の日から虐めが無くなってきました。

これから木登りの世界を紹介します。

地球が完璧だったら全ての子供達は幸福です。全ての動物、植物も幸せのはず。でもそうでもない。色々ある。

生物多様性会議で色々な動物を助けてと言っています。子供達も助けてと言っています。大変な生活をしている人が一杯います。ゴミのせいで動物も苦しんでいます。

僕たちは自分の目で見ないと感じないし、動きません。大人でも子供でも同じです。

社会には困っている人が沢山います。全て幸せじゃない。

動物と人間は良く似ています。

でも実は、人間がやった事は人間が直すことができるのじゃないかと思えます。

生物多様性もあるが人物多様性もあります。

家族は凄い。家族は皆違うから面白い。年齢、経験も違う。

近所もそう。多様性があるから社会も動いています。

多様性があるけど繋がりがないと意味がありません。

世界は多様です。今その繋がりを作りたいと思えます。お爺ちゃん、お婆ちゃん、友達。

僕は若者が大好きです。

若者も皆違います。皆同じだったら怖いでしょう。個性があるから素晴らしい。

先日国分太一さんが放送の中でツリークライミングをやりました。彼は凄く感動しました。

木に登ったことのない子供達はもっと感動します。

「凄い！凄い！」
 面白いのは自分を褒め始める事です。
 「僕、凄い。ここまで来た。凄い」
 降りてくると親に褒められます。褒めあいが始まります。
 子供達は達成感に満たされます。
 僕は木から降りて来ると恩返しの話をしてします。
 「木を助けようか。森に入って間伐をやって、木をきれいにして登ろう」
 少しずつ子供達は変わってきます。
 僕は世界中で色々な木に登ってプログラムを始めています。普通の人は木の事は前々考えていません。見ていません。
 でも1回登ると木を見る目になります。
 手紙が来ます。
 「あそこのお寺の木は凄い」「僕の学校の木は凄い」
 疑問が湧きます。
 「木はどうやって水飲むの」
 これは、最近アメリカへ帰って持ってきた、世界で一番長い松ぼっくりです。松ぼっくりは、皆、中が螺旋状です。高さ60メートルの木です。
 これは、カリフォルニアにある世界で一番大きなジャイアントスクエアです。高さ100メートル、直径13メートルです。
 皮の厚さ1m、軽くて燃えません。家の断熱材はここから発想されました。
 この木に登ると世界は、人間は、本当にちっぽけなものだと思います。
 僕は研究の為一番上まで登っています。風が吹くと中心から15m揺れます。風が吹くと森の全ての木が動きます。
 酔います。でも一番良い遺伝子、種が一番上にあります
 ツリークライミングでは研究者を育て、剪定者を育て、心を癒すプログラムを作ります
 生まれつき指の無い子が1年かかって登りました。
 目の見えない子、太った子。虐待された子が登ります。
 人間と木はよく似ています。生まれた場所は選ばれません。そこで一生懸命頑張ります。
 でも人間は足がある。人に声もかけられる。
 そんな話しを森の中でします。
 全ての子供達が少なくとも1回木に登るのが僕の夢です。
 森に入って、自然を好きになって、人を好きになって、人を褒め、自分を褒め、人を助ける、そういう子供達を作りたいのです。
 中部大学で学生を調べたら、森を好きな学生は17%しかいませんでした。温暖化、生物多様性問題に関心がありません。
 先生になる学生にツリークライミングプログラム

を実施しました。中部大学の森をきれいにし、ツリークライミングの森を作りました。先生志望の学生が、幼児、低学年の子供と一緒に森の中でツリークライミングを行います。泣いていた子供も、木登りの後、笑顔になります。
 木の上に子供達と一泊することもあります。
 コミュニケーションできない子供は昼はあまり話しをしません。でも夜はコミュニケーションが始まります。
 子供は夜になると怖くなる。トイレに行きたくなる。
 皆が声を出し始めます。一緒に行動をし始めます。
 実は昔の子供と今の子供は同じ力があります
 ただ環境がないだけです。
 曲がりくねった木も凄い。苦勞して太くなった木も凄い。楽な事は世界に無い。
 でも苦勞すれば世界で一番大きい心になる。
 苦勞して遅くなって優しくなって、人を助ける人になる。そういう大人に会った事のない子供は、大きな木を見て真似をし始めます。



(文責 吉田玄君)

◆ 2月理事役員会議事録

- 1) 2010～2011年度上半期決算書の件。
- 2) 地区協議会指導者会議参加の件。
 3月27日(日) 13:30～16:00
 会長・次期(ガバナー補佐・会長・副会長・幹事)に参加頂く
- 3) 諮問会開催の件。
 ◎2012年2月14日(火) 東名古屋区分IM
 場所:名古屋東急ホテル
 IM実行委員長→宮尾絃司
 ◎2012年4月15日(日) 地区協議会
 場所:ウエスティンナゴヤキャッスル
 ◎2012年10月? 創立30周年記念
 地区協議会実行委員長・30周年実行委員長
 諮問会にて推薦する(3/22) 承認
- 4) 会場都合にて例会変更4/26の件。
 名古屋市科学館(プラネタリウム)見学
 4/26 11:30～(40分)
 家族も参加できるよう予約する。 承認
- 5) 事務所エアコン報告の件。
 管理事務所により2月10日工事終了
- 6) 東名古屋区分IM2012年2月14日(火)
 講演者報告の件。
 養老孟司氏 東京大学名誉教授に決定。

ロータリーの友2月号より

こんなことがありました

2月23日はロータリーの誕生日

1905年2月23日、この日、弁護士のポール・ハリスは、3人の仲間と会合を持ちました。ロータリーの始まりです。この3人とは、石炭商のシルベスター・シール、鉱山技師のガスターパス・ローア、仕立業のハイラム・ショーレーでした。

ポール・ハリスは『ロータリーへの私の道』に、当時のシカゴでの生活について「日曜の朝は下町の教会へゆけばよかったです。長い日曜日の午後はどうにもならないほど孤独でした。(中略)市内の公園などを散歩しても、どうにもなりません。すべてがあまりにも人工的で、しかも散歩している人びとのなかに、知った顔ひとつなかったのです。日曜日の午後の市内の公園ほど、孤独を感じさせるところはありません。知らない人がたくさんいることが、かえって限りなく広がる大海原や大平原にいる以上に、孤独感を強めるのです」と書いています。彼は、知り合いはいなくても友人がいない大都会シカゴで、孤独な日々を送っていたのです。

彼は、「人間には友人がなければならぬということも、先に述べたような経験をしなかったら、私もそれほど必要だとは思わなかったでしょう。おそらくこれも宇宙の仕組みの一部分となっているもので、人間は同類の人たちと友人関係をもたなければならぬということがはっきりとわかったのです」と書いています。そういう経験や思いから出てきたのが、新しいクラブをつくることでした。

ポール・ハリスは最初の会合について、「自分の村で知っているような、お互いの協力と気取らない友情を深めるための簡単な計画を彼らに提示しました。彼らは私の計画に賛成してくれたのです」と書いています。

『奉仕の一世紀』には、「その日の午後遅く、ポールとシルベスターはマダム・ガリのレストランで夕食を共にし、親睦とビジネスを推進するクラブという構想について話し合った。(中略)夕食後、ポールとシルベスターはディアボーン・ストリート127番地のユニティービル7階にあるローアの事務所まで歩いて行った」と書かれています。

ポールは、会合の前にシカゴでの一番の親友であったシルベスター・シールに会い、自分の構想への後押しを頼んだのかもしれません。

余談ですが、この時2人がマダム・ガリの店で食べたのはスパゲティ。ポールは『The National Rotarian』（『The Rotarian』の前身）1912年3月号で「私はシールとマダム・ガリに行って、スパゲティ・ディナーを食べたのをよく覚えています」と述べています。

現在200以上の国と地域に、120万人のロータリアンを擁する組織は、20世紀の初めに4人から始まりました。その後、順調に仲間を増やし、ロータリーはアメリカ全土に広がっていきました。会員が増えれば、違った考えや経験を持つ人も出てきます。本誌2010年1月号横組みP6～13に紹介したポール・ハリスの「合理的ロータリアニズム」は、1911年1月に発表されたものです。

が、そこには既に考えの違う4人が登場しています。

その後、ロータリーは海を渡り、全世界へと広がりました。それと同時に、ロータリアンの考えだけではなく、ロータリーの活動も広がり続けています。

『友』結集長 二神 典子

ゴルフ会成績

セントクリークCC 2/16(水)

RANC	NAME	OUT	IN	G	HCP	NET
優勝	川端 圭	43	41	84	7	77
2位	林 正路	44	42	86	5	81
3位	佐久間良治	49	47	96	12	84
4位	大川 勝平	48	48	96	8	88



ニコボックス

池森 由幸

先週のIMは札幌で会合出席の為、欠席しました。雪まつりは寒かったです。

小林 英毅

よく雪が降ります。お互い事故に気を付けましょう。

油田 弘佑

萩原喜代子

林 正路

堀江 宏輝

伊藤 健文

加藤 重雄

川端 圭

喜多 康夫

小杉 啓彰

小山 雅弘

松居 敬二

官尾 絃司

三好 親

佐久間良治

笹野 義春

鈴木 理之

鈴木 聖三

谷口 優

舎人 経昭

渡邊 源市

吉田 節美

吉田 玄

ジョンさんのお話 楽しみです！

西川 豊長

会員誕生日祝い



合計 45,000円